

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	青少年の社会参加・体験活動の機会づくりに要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	135青少年の健全育成	担当課室長	青木 真也			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	地域及び関係団体が連携し、子ども達に様々な体験を提供することで、ふるさと意識醸成や各事業の効率性を高める。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	隔年事業の北海道ホームステイや他の事業で関係団体と連携し、子ども達への体験活動を提供することで、ふるさと意識醸成や地域全体で子どもたちを見守り育てる意識向上を図る
②①に基づく取り組み結果	公民館と青少年相談員学区コラボ事業でまつりで縁日を行った。また市内スポーツ団体、高校生にレクチャー等依頼し「放課後子ども教室」を低コストで試行実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	青少年及び関係団体	意図(対象をどうするのか)	青少年健全育成及び団体の活性化
②事務事業の概要	青少年への自然体験・社会体験の機会提供及び地域ボランティア、関係団体の活動支援			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	家庭状況の変化等で、青少年の異年齢交流、自然及び社会体験等の社会形成に必要な機会が減少し、その機会を事業として求めるニーズは年々高まっている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	公民館事業に青少年相談員が参加し、子どもが喜ぶ縁日行い、その家族、地域の人との交流ができた。また放課後子ども教室はレクチャーを市内高校科学部やテニス協会にボランティアでご協力いただき、教える側も子ども達も有意義に行えた。					
②成果を表す指標	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i 元気っ子ゼミナール参加者数	58	59	60	人	業務取得
	ii 成人の日記念行事実行委員会議決	13	24	19	回	業務取得
	iii 各団体活動数	151	152	147	回	業務取得
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算	
事業費(千円)	6,829	5,235	金額(千円)		7,352	
	国支出金(千円)		960	成人式会場設営		
	県支出金(千円)	235	235	174	成人式記念行事	235
	市債その他(千円)		2,408	青少年教育関係		
	一般財源(千円)	6,594	5,000		7,117	

IV 評価・検討

①課題	社会のモラルが多様化する中で、学校・家庭以外でも地域全体の教育力での青少年の育みが見直される中、地域の支援者及び子ども会等団体の減少がみられる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	団体・ボランティア等が補助金を有効的に活用し、青少年に体験活動等事業展開されているか精査を要する。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	平成29年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H28からの繰越
		H28⇒29繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当				
	平成30年度への繰越額(単位:千円)				

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	非行防止対策の推進に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	5	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	135青少年の健全育成	担当課室長	大関 克由			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	地域等との連携を強化し「子ども110番の家」の設置の啓発に努め、増設を図る。学校開放事業の運営委員会の中で「子ども安全メール」の実績を紹介するとともに、登録の啓発を行う。また、子どもを取り巻く環境として、インターネットをめぐる問題があり、職員の研修を行う。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	不審者の注意喚起として「子ども安全メール」の発信や地域との連携で子どもの安全を見守る「子ども110番の家」に加え、新たに「かまがや83+運動」の啓発をはかり、地域で子どもを見守る意識醸成を図る。
②①に基づく取組み結果	「子ども110番の家」の登録者数については、新たに自治会回覧(班回覧)や各種行事(サンフェス、夏まつりなど)でチラシ配布の啓発をした結果、前年比11件増の1,341件となった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の青少年	意図(対象をどうするのか)	①非行の早期発見、早期指導により青少年の非行を防止する。 ②速やかに情報を発信し青少年の安全を確保する。
②事務事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの非行防止を図る。</li> <li>子どもたちの安全確保を図るため、子ども安全メールを発信する。</li> </ul>			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学生による殺人事件の発生等、犯罪、犯行の低年齢化が進んでいる反面、小中学生が犯罪被害者となる事件が数多く発生している。</li> <li>子ども安全メールの発信に伴う、情報提供の迅速化や「子ども110番の家」の増設の要望がある。</li> </ul>			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	補導、相談等の活動において青少年非行の早期発見、早期指導を実施することにより、青少年の健全育成の向上が図れた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	子ども安全メール登録者数	4,784	5,543	5,528	人	業務取得
	ii	地域見守り活動従事者	1,161	1,234	1,405	人	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳			平成30年度予算	
事業費(千円)	6,383	6,666	金額(千円)	内容		6,880	
国支出金(千円)			150	青少年センター運営協議会委員報酬			
県支出金(千円)	250	250	659	青少年補導員報酬		250	
市債その他(千円)			199	機関誌「緑の子」印刷			
一般財源(千円)	6,133	6,416	176	補導員補助金		6,630	

IV 評価・検討

①課題	今後ますます低年齢層による非行が増加するとともに、犯罪被害者となるケースも増えるものと思われる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	家庭、学校、地域又は関係機関との連携を図りながら、補導活動への協力や子ども達の安全に関心をもってもらうなど地域ぐるみで子ども達を見守り、子ども達が心身ともに安全な生活を送れる環境整備を継続して実施していく必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	平成29年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H28⇒29繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当			
	平成30年度への繰越額(単位:千円)			